

# Care & Communication

Care & Communication

ケア&コミュニケーション

C O N T E N T S

<p>P1-2</p> 	<p><b>INSIDE REPORT</b></p>	<p>予防と治療スペースを完全に分離し、ISO導入など新システムの歯科に取り組む</p> <p>わくだ歯科 院長 <b>和久田 一成 先生</b> 副院長 <b>和久田 治美 先生</b></p>
<p><b>THE FRONT LINE</b></p>	 <p>P3-4</p>	<p>女性ならではの視点を生かした癒しの歯科医院を開業</p> <p>天川デンタルオフィス外苑前 院長 <b>天川 由美子 先生</b></p>
<p>P5-6</p> 	<p><b>DOCTOR'S TALK</b></p>	<p>マイクロスコープを使った緻密な治療で修復補綴と予防の質を高める</p> <p>デンタルみつはし 院長 <b>三橋 純 先生</b></p>
<p><b>DENTAL REPORT</b></p>	 <p>P7</p>	<p>デンタル世界紀行 Vol.3</p> <p>タカハシ・デンタルオフィス 院長 <b>高橋 登 先生</b></p>

# 予防と治療スペースを完全に分離し、ISO導入など新システムの歯科に取り組む

わくだ歯科 院長 和久田 一成 先生 副院長 和久田 治美 先生



和久田 治美 副院長 / 和久田 一成 院長

開業から20年目に場所を変え、新築したわくだ歯科。欧米の潇洒な建物をイメージさせる歯科医院の中では、予防と治療を完全に分けた新システムの診療が行われている。

## 予防システムを徹底するためのハードを新築

わくだ歯科医院が新築したのは、2005年12月のこと。約500m離れた場所から移転してのリスタートだった。

「開業から20年経ち、建物や設備が老朽化していたこと、診療のコンセプトが治療から予防に移行しつつあったことが、新築を決意させました。旧診療所の改築では限界があったのです」と、和久田一成院長は、移転のきっかけを話す。

新歯科医院の特徴は、一つに予防と治療を完全に分離したことだ。中央の受付と待合室を挟み、建物の正面から向かって右が予防スペース、左が治療スペース。予防側には6つの個室、治療側には4つの個室にチェアが置かれている。

しかも、治療側の個室には、患者の不安感をやわらげながら、場所が分かりやすいように、果物の名前をつけ、その果物の色をユニットやキャビネットに取り入れている。一方、予防側は、予防専門の個室と治療の延長にあるスケーリングやPMTC用の個室に分けるといふきめ細かさだ。



半円形のデザインが目を引く外観

## らしくない歯科医院を目指し、安全で快適な空間を重視

わくだ歯科が予防に力を入れ始めたのは、2004年から。翌年からは、トリートメント・コーディネーター制を導入し、カウンセリングも充実させてきた。

「予防のシステムを生かすためにスペースを確保したのが、新築の経緯です。安全と安心を確保し、歯科医院らしくない歯科医院を目指すことも大切にしました」

その言葉の意味がよく伝わるのが、内装だ。一般的に予防には清潔な印象の白、治療には温かみのある木目調を選ぶことが多いが、同歯科は逆。予防は木目、治療は白が基調だ。

「逆にしたのは、設計の途中からです。日常生活の延長である予防に気持ちが安らぐ木目調、治療スペースには医院としての清潔さがが必要と考えたのです。窓を床まで大きくとったのも、歯科医院で受ける圧迫感をやわらげるためです」

また、珪藻土の塗り壁にしたり、フロア全部に床暖房を取り入れるなど、安全性と快適性にも気を配っている。

「コストを考えれば、珪藻土の塗り壁や床暖房は勇気のいる決断に思えるかもしれませんが、でも、1日中、立ち続け、足が冷えてつらいと訴えるスタッフもいます。患者さんはもちろん、働く私たちも快適でいられる空間を確保することに迷いはありませんでした」と、和久田治美副院長は話す。

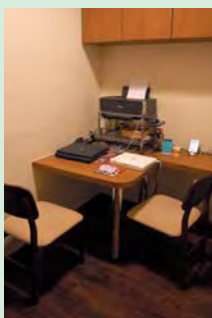
受付右がケア、左がキュアへの入り口



中央に長テーブル、周囲にソファを配置した受付



清潔に整頓されたクリーンルーム



落ち着いた雰囲気のカウンセリングルーム



わくだ歯科の先生とスタッフのみなさん

## スタッフの力量を平均化し、意欲を高めるISOの導入

わくだ歯科では、初診時のカウンセリングと2回目以降のカウンセリングの部屋をそれぞれ用意している。

「初診では検査とともに、トリートメント・コーディネーターから30分以上のカウンセリングを受けます。2回目は初診時の結果をもとに、さらに詳しく説明しながら、治療方針を患者さんにご理解いただきます。治療が始まってからは、節目ごとにカウンセリングを行います。最初の電話から、一生の歯の健康を考えた治療方針であることを説明するので、患者さんに大きな混乱はないようです」(和久田院長)

丁寧なカウンセリングは、患者の健康意識を高め、積極的な予防への誘導や自費診療のアップにもつながる。旧診療所時代に比べ、メンテナンスに訪れる患者は大幅に増加。現在、1か月の患者数1900人のうち、600人がメンテナンスだ。

しかし、個室は、患者のプライバシーが守れる反面、スタッフの力量や対応のバラつきに院長が気づきにくいという心配がある。

「そこで、ISO9001:2000を導入しました。品質方針や診療指針、長期目標を規格・マニュアル化することで、サービスの質を均一化できました。スタッフたちが以前より、誇りを持って働くようになったと思います」(和久田院長)

じつは、わくだ歯科では歯科衛生士の給与に歩合制も取り入れている。技術レベルを5段階に分け、Aランクになると相談の上、希望すれば、歩合制に移行している。現在は2名が歩合制。収入は固定給時代よりも増えたという。

「各個室の担当が備品や清掃などを自己管理するシステムにしているのですが、歩合制を組み合わせたことで、やりがいが増したようです。また、ミーティングの主役は各チームのリーダーたち。自主性と責任感が養われたのも、ISOで得られたメリットだと思います」(治美副院長)

## 専用ルームで専任スタッフが徹底する感染・殺菌システム

歯科医院における安全性には、感染予防も重要なポイントになる。

予防を重視しているなら、なおさらだ。消毒・滅菌を専門に行うクリーンルームでは毎日、専任のスタッフがマニュアルに従った消毒・滅菌作業を行っている。

「超音波洗浄器やオートクレーブ、紫外線保管庫を備え、さらにホースなど、取り外しが難しい場所の殺菌を考えて、中性電解水を取り入れています」(和久田院長)

中性電解質を取り入れた結果、「止血効果や歯周病予防にも効果が出てきた」と和久田院長は感じているようだ。

歯科医師として脂が乗っている時期に歯科医院を新築する。歯科医師にとって理想的な状況とも言えるが、和久田院長は、ハードよりソフトの重要性を強調する。

「予防が成功するかどうかは、システムの質が大きく関わってきます。たとえ、ユニットが2台でも、歯科医師が1台で治療し、歯科衛生士がもう1台でメンテナンスをすることは可能です。ドクターがメンテナンスをしてもいい。重要なのは、患者さんの歯を一生に渡って、どうサポートしていくか。その方針を明確にし、実行することでしょう」(和久田院長)

### Profile

#### 和久田 一成 先生


- 1981年 九州歯科大学卒業 ●1985年 九州歯科大学大学院歯学研究科修了(歯科補綴学第一専攻)
- 1986年 わくだ歯科開院 ●2005年 わくだ歯科移転 ●2007年 医療法人社団わくわく会わくだ歯科設立
- 日本補綴歯科学会指導医 ●日本補綴歯科学会会員 ●日本歯周病学会会員 ●日本口腔インプラント学会会員
- MDIミニインプラント研究会会員

#### 和久田 治美 先生


- 1981年 九州歯科大学卒業 ●1981年 九州歯科大学歯科補綴学第一講座助手
- 1986年 わくだ歯科開院 ●2005年 わくだ歯科移転 ●2007年 医療法人社団わくわく会わくだ歯科設立
- 日本ヘルスケア歯科研究会会員 ●歯列育形成研究会会員 ●CDRG友の会会員

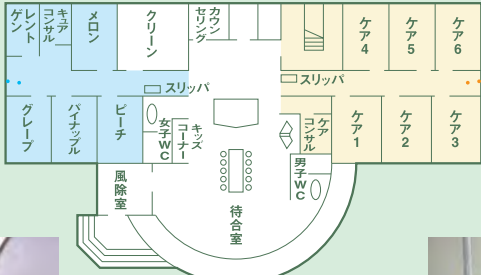
#### わくだ歯科

住所：浜松市西区雄踏町宇布見45街区-1  
TEL：053-596-1182 HP：http://wakuda-shika.com/




**Cure Corner**  
キュアコーナー







全体の見取り図。トイレを男女別にし、カウンセリングルームを3つ設けたのも快適性とプライバシーを配慮してのこと




**Care Corner**  
ケアコーナー



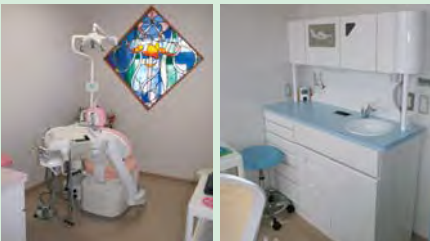
白を基調としたキュアコーナー。個室のドアには果物のマークがあらわされている




木目調のケアコーナー。葉の形のプレートがドアの目印。予防専用の個室は白のチェアを使用



果物のイメージカラーをチェアやユニットのポイントに取り入れている



治療の延長としてケアを行う個室は黄色いチェアを使用



落ち着いて話ができるようにカウンターを低く設計した受付回り



温かな印象を与えるモザイクタイルと間接照明



診療室との壁に設けた出窓風の小窓

# 女性ならではの視点を生かした癒しの歯科医院を開業

天川デンタルオフィス外苑前 院長 天川 由美子 先生

女性の歯科医師が増えている。そこで、2007年5月に開業し、セミナーの講師としても活躍する天川由美子先生に開業からこれまでの歩みをうかがってみた。

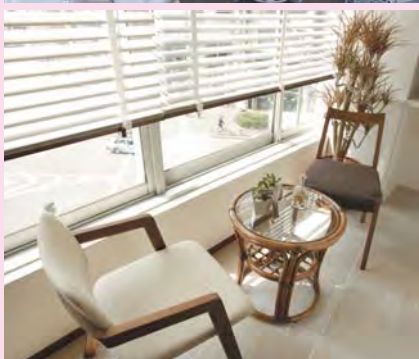


天川 由美子 院長

2台のチェアの仕切りはブラインド。下ろすと個室風になる



患者がゆったり座れるようにチェアにもこだわる



受付の奥にあるカウンセリングコーナー



マイクロスコープも完備



交差点そばにあるため、窓からは青山通りが見渡せる

## やすく空間の中で 最適な治療を提供

東京・外苑前交差点の目の前、ビルの4階に天川デンタルオフィス外苑前はある。ユニットが2台と規模は小さいが、木製のドアを開けると、柔らかく居心地のよい空気が漂う。

「『癒しの空間での確かな治療』が歯科医院のコンセプト。患者さんにリラックスしてもらえるように内装だけでなく、コミュニケーションにもきめ細かく気を配っています。流行に敏感なショップが多い外苑前を選んだのも、うちのメインの患者さんである働く女性などが通院を楽しめるようにとの考えからです」

と、話す天川由美子院長。その言葉通り、間接照明が柔らかく降りそそぐ受付回りは、センスのよいヘアサロンかカフェのよう。

一方、診療室は天井を高く設計し、間接照明を施して、ビルの歯科医院にありがちな閉塞感をやわらげている。医療設備もマイクロスコープや医療用空気清浄機を設置するなど、小規模であっても最新鋭の診療ができるシステムを整えている。

## 数少ない女性の開業医としての 苦勞を乗り越える

長年、勤務医だった天川院長が独立を決意したのは、将来に不安を感じたことがきっかけだった。

「数多くの患者さんを任せ、技術も磨き、セミナーの講師も務めるなど、充実した生活でした。でも、たとえば、勤務先の院長先生が倒れたらどうなるのか、などと突き詰めて考えると、今後に疑問がわいてきたんですね。将来の見通しが不透明なのは勤務医も開業医も同じ。苦勞をするなら、小さくても歯科医院を持ち、患者さんと一生、つきあえる関係を築こうと決断したのです。院長の土屋賢司先生に相談し、賛同を得られたのも、本当に嬉しく、励まされました」

開業の準備期間は約半年。2月に物件の契約を済ませてからの展開は早く、4月20日には内覧会を迎えていた。歯科医院の場所や設備には、ほとんど悩まなかったが、女性ならではの苦勞もあった。それは、目標にしたい歯科医院がないことだった。「男性の先生なら、憧れの先生の歯科医院を参考に開業準備をしたり、開業後もアドバイスを求めたりすることが可能です。でも、女性の歯科医師の場合、数は増えていますが、一人で開業している先生はそう多くありません。気軽に相談できる身近な先輩が少なく、それが現時点で女性の歯科医師が開業するにあたって、男性とは違う点でしょう」

## 独自のシステムづくりに 悩んだ開業1年目

天川デンタルオフィス外苑前では、「患者様」から「健康なお客様」になってもらうために、カウンセリングに力を入れている。

最初の予約では、痛みがある場合は応急処置をほどこす、基本的には問診から始まる。2回目の予約ではう蝕検査や歯周病リスク検査などの検査を行い、さらに深く問題点を探っていく。そして、3回目は検査の結果や治療計画を説明し、患者の希望とすりあわせながら、内容を修正していく。

最近の歯科治療では主流になりつつある初診から治療開始までの流れだが、天川院長は自分の歯科医院を持ってみて、こうした診療のシステムづくりがいかに大変かを痛感したという。「勤務医時代も担当制でしたから、患者さんと治療方針について話し合うことには慣れていました。でも、院長になってみると、問診や検査結果の説明の仕方一つとっても、今のタイミングで必要な質問なのかどうか、もっと違う聞き方があるのではないかと

この説明で患者さんは分かってくれるだろうか、と心配になります。開業から今までは、診療のシステム作りが最大の課題でした。ようやく大まかな部分ができってきたので、2年目は工夫を加え、もっと働きやすく変えていこうと思っています」

## チームワークと自己分析が コミュニケーション力のカギ

もう一つ、力を入れているのが、コミュニケーションだ。そのために、受付のスタッフ2名は、クリニカル・コーディネーターの勉強をしている。天川院長は、受付の役目をこう話す。

「受付は、患者さんの気持ちに寄り添うのも大切な仕事です。私や歯科衛生士は、最良と思えばインプラントも抵抗なく勧めてしまいます。でも初めてインプラントを聞いた人は、誰でも『怖い』と思うはず。私たちが忘れがちな患者さんの素朴な感情を受付には共有して欲しいのです」

また、患者とのスムーズなコミュニケーションは、院内のチームワークがあつてのこと。天川デンタルオフィス外苑前では毎朝と月1回のランチミーティングを行っている。特筆したいのは、毎朝、全員が持ち回りで1分間スピーチをすることだ。人前で話す習慣を持つことで、スタッフも次第に自分の考えを適切にまとめて伝えられるようになってきたそうだ。

さらに、院内のチームワークのよさが、院長を助けることがある。天川院長自身、スタッフがいたからこそ、もっともストレスのかかる開業1年目を乗り越えられたと告白する。

天川院長は、コミュニケーション力を高めるために、コーチングを学ぶの也不错と話す。コーチングとは、現状を分析し、目標を達成するための策を検討し、実行する技法だ。天川院長は、コーチングのトレーニングを通じて自己分析をしたことが、経営や治療方針を考える上で非常に役立ったそうだ。

「先輩の女性歯科医師から相談を受けることも多いのですが、気になるのは、問題を漠然ととらえている人が多いことです。悩みを解決するためには、何が問題なのかを分析することが欠かせません。問題点がはっきりすれば、解決策も考えやすくなるからです。また、自信がないのは勉強不足だからでしょう。歯科雑誌の目次を見て、知らない言葉を調べるだけでも、勉強のきっかけになると思います。これから開業を目指す女性歯科医師には、受け身ではなく、自分で積極的に課題を探る自立した姿勢をぜひ持ってほしいですね。そのために、私もセミナーなどを通して応援し、一緒に頑張っていきたいです」



天川先生とスタッフのみなさん。  
ノー残業も歯科医院のモットー

## Profile

### 天川 由美子 先生

- 1994年 鶴見大学歯学部卒業
- 1999年 鶴見大学大学院修了 博士号(歯学)取得
- 1998~2001年 植松歯科医院勤務
- 2001~2006年 土屋歯科クリニック勤務
- 2007年 天川デンタルオフィス外苑前開業
- 鶴見大学歯学部非常勤講師
- 日本補綴歯科学会
- 日本歯内療法学会
- 日本接着歯学会
- 日本顎咬合学会
- 東京SJCD 所属

### 天川デンタルオフィス外苑前

住所:東京都港区北青山2-7-18第一真砂ビル4F

TEL:03-5926-3871 HP:<http://www.amakawa-do.com/>

# マイクロスコープを使った緻密な治療で 修復補綴と予防の質を高める

デンタルみつはし 院長 三橋 純 先生



三橋 純 院長

歯科技術の緻密さが増すにつれて、マイクロスコープへの注目度が高まっている。臨床では、どのように活用されているのだろうか。セミナーの講師も務める三橋純先生にうかがってみた。

## マイクロスコープの世界に 一瞬で魅せられる

「歯とはこんな構造だったのか。教科書で習った世界がそのまま目の前にある」

初めてマイクロスコープを使って、口腔内をのぞいたとき、三橋純院長の歯科診療に対する考え方は、180度変わったという。

「一瞬でマイクロスコープに恋したんですよ」と笑う。

三橋院長がマイクロスコープと出会ったのは、開業の直前、1999年12月頃。補綴診療の記事から興味を持ち、すぐにセミナーに出席を申し込んだ。セミナーの前に一度、実物を見ておきたいと見学を頼んだメーカーのショールームでマイクロスコープに触れたときの感動は、今も忘れたことがない。

「私たち歯科医師は目をつぶっては、治療はできない。マイクロスコープで見ると、それまで自分がいかに見えていなかったかがはっきりと分かります」

## 3台のチェアすべてに マイクロスコープを設置

現在、デンタルみつはしでは、3台のチェアすべてにマイクロスコープを取り付けている。

1台は、開院と同時に導入した「ライカM300」。現在、メンテナンス用として、歯科衛生士が使っている。

もう1台は、代診の歯科医師のためのマイクロスコープとして導入した「ピコモラー」だ。

そして、日々、三橋院長が使っているのが、世界最高峰と言われるカルツァイス社の「プロエルゴ」。じつは日本で初めてプロエルゴを歯科医院に導入したのが、三橋院長だ。

「ライカM300を使い始めてすぐに焦点距離が短いため、根管などの深い部分に見えないところがあることに気づきました。また、内蔵型のCCDのため、鮮明な画像が撮れないことにも不満を感じ、プロエルゴの導入を決意したのです」

プロエルゴの場合、高い倍率ではゆっくりと、低い倍率ではすばやくフォーカスを合わせられること、顕微鏡の回転運動3軸をボタン一つで自由に動かせることから、ストレスを感じることなく思い通りに操作できること、長時間、使用していても拡大鏡のように目が疲れないことも魅力だった。

「私の歯科医院では2002年5月から、マイクロスコープにレコーダーを接続し、すべての診療記録を動画で保存しています。そのため、予後に不具合が出たときも、動画の形で診療記録を見直すことができます。これもマイクロスコープで得られるメリットの一つでしょう」

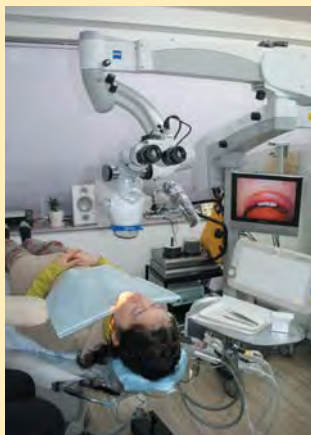
## 治療の問題点や改善点が 映像として明確になる

三橋院長は、印象を採る際や補綴物を装着する際にマイクロスコープがあるかないかでは、大きな差が出ると指摘する。たとえば、印象が正確に採れていれば、補綴物が合わない事態は避けられる。ところが、多くは修正が必要になる。また、補綴物が適合して

ビッグサイズの絵が明るい雰囲気の受付回り



マイクロスコープ(プロエルゴ)を設置したチェア



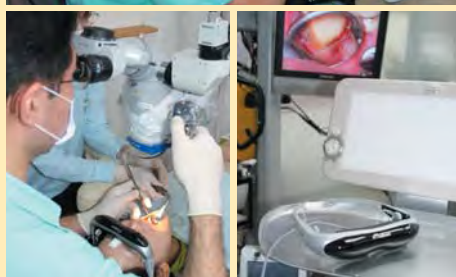
すべての診療にマイクロスコープを使っている



診療室。近々、リフォームを予定しているという



操作性と画質の良さが魅力のプロエルゴ



患者に口腔内を見せるときはメガネ型のヘッドマウントディスプレイを装着してもらう

いれば、治療後に2次カリエスになることも少なくなるはずだが、実際には再治療になってしまうことも多い。

「これらのケースをマイクロスコープで見ると、補綴物とマージンの間に隙間が空いていたり、不要なセメントが残り、菌垢がたまりやすい環境になっていることが珍しくありません。自分では完璧な治療をしたと思っていても、じつは、完璧な『つもり』だったということを感じさせられるんですね」

また、メンテナンスにおいても、マイクロスコープは有効だ。

「今までは手の感覚が頼りでしたが、マイクロスコープを使うことで、プラークがはっきりと見えるようになり、自信を持ってケアできるようになりました。院長も言っていますが、教科書に載っていた図が目目の前にある状態なんです。初期の虫歯も見逃しにくいですし、歯科衛生士にとっても、マイクロスコープは心強い味方ですね」と、歯科衛生士の沢田佳子さんは話す。

沢田さんはマイクロスコープの操作にはすぐに慣れた。練習が必要だったのはミラーワークだ。死角ができないミラーの動かし方を覚えるため、トレーニング用マネキンを使って練習したという。



ケアのときもマイクロスコープを使用

## 患者とのコミュニケーションツールとしても役立つ

マイクロスコープの活用は、患者側にもメリットがある。自分の口の中の状態や治療の様子をリアルタイムで自分の目で確かめられるということだ。

デンタルみつはしでは、患者にメガネのような形をした「ヘッドマウントディスプレイ」を装着してもらい、マイクロスコープの映像を見せている。モニターでは映し出しにくい場所が出るが、ヘッドマウントディスプレイなら、患者の頭と一緒に動くので、その心配がない。「患者さんにすれば、治療した歯がなぜまた痛むようになったのか、納得できないことも多い。そんなとき、マイクロスコープの画像で補綴物とマージンの隙間を見せると、2次カリエスの原因が理解しやすい。また、菌垢のつき方から、磨き残しやすい部分も自覚しやすくなるんですね」

マイクロスコープを使うようになって、患者とのコミュニケーションがスムーズになったという三橋院長。今でも、発見の毎日で歯科治療が楽しくて仕方がないと話す。そして、治療内容に悩む歯科医師にマイクロスコープの導入を勧めたいとも。

「チェアを買い換えるお金があるなら、マイクロスコープを検討して欲しい。治療の質が格段に上がります。クリアに大きく見える世界を得ることで、手先も器用に動かせるようになる。米に字を書くには熟練が必要ですが、半紙になら誰でも文字が書けるのと同じです。マイクロスコープを使う歯科医師が増え、多くの歯科医師と切磋琢磨し、情報交換できる環境が整うこと。それが今の私の夢です」

三橋先生とスタッフのみなさん



## Profile

### 三橋 純 先生

- 1989年 新潟大学歯学部卒業。東京歯科研究会に勤務
- 1992年 新潟市・三橋歯科医院に勤務 ● 1998年 荒木歯科医院勤務 ● 2000年 デンタルみつはし開業 ● 2006年 日本顕微鏡歯科学会理事 ● カールツァイス社公認インストラクター

### デンタルみつはし

住所：東京都世田谷区松原3-28-6 A&Aオークビル1F  
TEL:03-3327-8170

## マイクロスコープを使用した症例

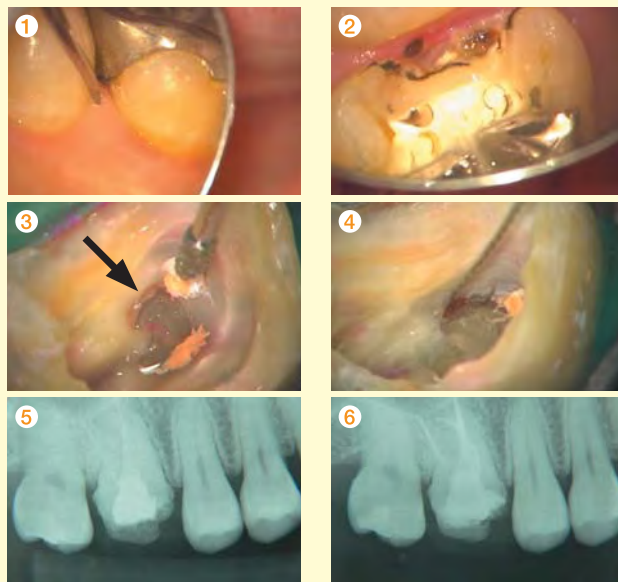
マイクロスコープを使うと、診療にどのような違いが出てくるのか、三橋先生に症例を紹介していただいた。



2002年からの診療記録。以前はビデオだったが現在はDVDで保存

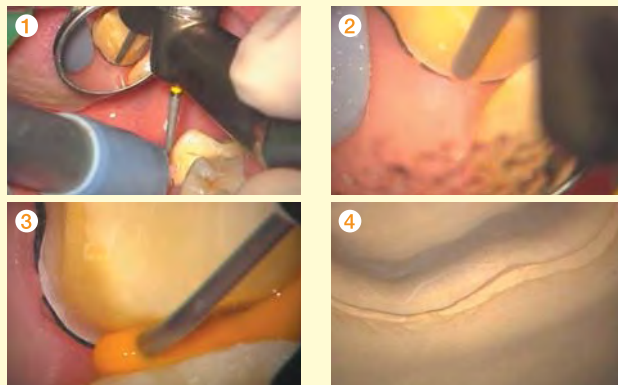
### 症例 CASE 1 根管治療症例

- ① 上顎右側第一大臼歯近心から咬合面にかけて大きなアンレーが装着されている。歯間乳頭を探針で押し下げると歯肉縁下でアンレーの-marginが大きく不足していることが視認できる。このアンレーは半年前に装着したばかりであった。患者には全く自覚症状は無いが、明瞭な画像を見せる事で再治療の必要性を患者に認識してもらえる。
- ② アンレーを除去したところ。マージンの不足により隣接面歯肉側に大きな死腔がありプラークや食物残渣などが大量に停滞していた。不用意な修復治療が引き起こした結果を目の当たりにすると拡大視の必要性を強く感じる。
- ③ 無症状であるが再根管治療をする。白く石灰化した象牙質を削合して髓床底を整え、未治療の近心頰側第二根管を探索する。
- ④ 探索の結果、未治療の近心頰側第二根管を発見。生活歯髄のため麻酔をしてからの抜髄となった。肉眼でこの根管を発見、治療する事は非常に困難である。術前のアンレーのままであれば、死腔からの感染が数年の後にこの根管に達して何らかのトラブルが発生していたと思われる。治療の質を上げ、トラブルを未然に防ぐことこそ顕微鏡歯科の真髄がある。
- ⑤⑥ 術前(⑤)と術後(⑥)のデンタルレントゲン写真の比較。近心頰側根の拡大、根管充填の状態の違いが明瞭である。



### 症例 CASE 2 形成、印象症例

- ① 肉眼では形成マージンと辺縁歯肉との位置関係などは視認しにくい。
- ② 顕微鏡による拡大により、たとえ注水下でもバー先端の位置を視認しながら形成を進めることができる。
- ③ 細いノズルからウオッシュタイプのシリコン印象材を流している。1次圧排コードにより歯肉溝が開いた状態を保ち、印象材が溝内を走って行く様を視認しながら、確実に印象採得することができる。
- ④ 形成限界まで明瞭に印象採得することで、ようやく作業模型を作る事が可能となる。



タカハシ・デンタルオフィス 院長  
design Technique International 副会長 高橋 登 先生



高橋 登 先生

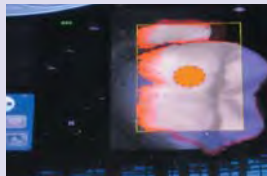
欧米の学会等に参加経験が豊富な高橋登先生に、最新の欧米事情をレポートしていただく第3回目。今回は、先頃、開かれた「シカゴ・ミッドウィンターミーティング」の様です。

前回までは、世界の審美歯科学会を中心にご紹介しましたが、今回は先ほど開催されたシカゴ・ミッドウィンターミーティングにて発表された注目の新製品をメインにレポートしましょう。2008年シカゴデンタルショーの注目度ナンバーワンは、公には初の発表となる3M ESPEの「Lava C.O.S. (Chairside Oral Scanner)」です。

印象採得を小型口腔内スキャナで直接スキャンするシステムですが、一歯ずつ流れるように読み取っていくと、全顎の3D画像が構成される驚きのシステムです。全顎の形態的情報をデジタルデータとして保存できる点は、補綴治療以外にも大きなメリットが生まれることでしょう。Lavaフレームであれば、CADデータのみで製作できますが、セラミックス築成用の作業模型もデジタル技術で製作できます。この技術には、前号『C&C 14号』でご紹介した「Rapid Prototype」の手法が応用されています。「Lava C.O.S.」のコンセプトは、「Virtual Dental Office」。まさにクールでサイバーな雰囲気が満ちあふれていました。



C.O.S.スキャナーを誇らしげに手にする3M ESPEのエージェント



口腔内で形成歯を含め、全顎歯を口蓋側から舌側へ次々とスキャンしていくと、2分で完了します



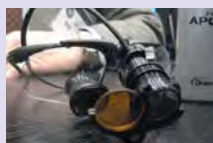
信じていたことに、すぐに全顎の3Dデータが構成されます。バイト、対合歯もスキャナで採得



層状に樹脂を硬化させていくRapid Prototype工法で模型製作



対合歯と咬合歯、形成歯のマーゲン出し、分割模型まで、すべてデジタルで作ります



最新のオラスコープティックルーベは、3.25倍ガレリアンにプリップアップ機構とフィルター付きLEDライトを装備



nexus3 (kerr) は光重合とデュアルキュアの2系統を揃えたユニークな接着システム



LEDライトのDEMI (kerr)。小型軽量化とファン装備、バッテリー対策が図られています



ミシガンアベニューにあるコンボジットレジメーカーを訪問



設備の整った研修室を視察。審美修復に対する関心とニーズは国際的に高い

その他のブースでは、ルーベや接着システムなど、興味深い商品も紹介されていました。

今回のシカゴでは、design and Technique Internationalの第1回記念ミーティングも行われました。Douglas Terry氏によって設立されたミーティングで、顧問にWill Gelle氏を迎え、メンバーにはGarber氏、Gurel氏、Magne氏、Leinfelder氏など、著名な審美歯科医師が名を連ねています。今回はクローズドミーティングでしたが、次回はオープンミーティング開催を予定しておりますので、ご期待ください。



Sofitel Chicagoにて行われたdTIミーティング。記念講演を行うGiuseppe Romeo氏(イタリア)とDouglas Terry氏

# SASAKI

お問い合わせ・ご意見:『C&C』事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>

Vol.15 April 2008 発行:ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。